

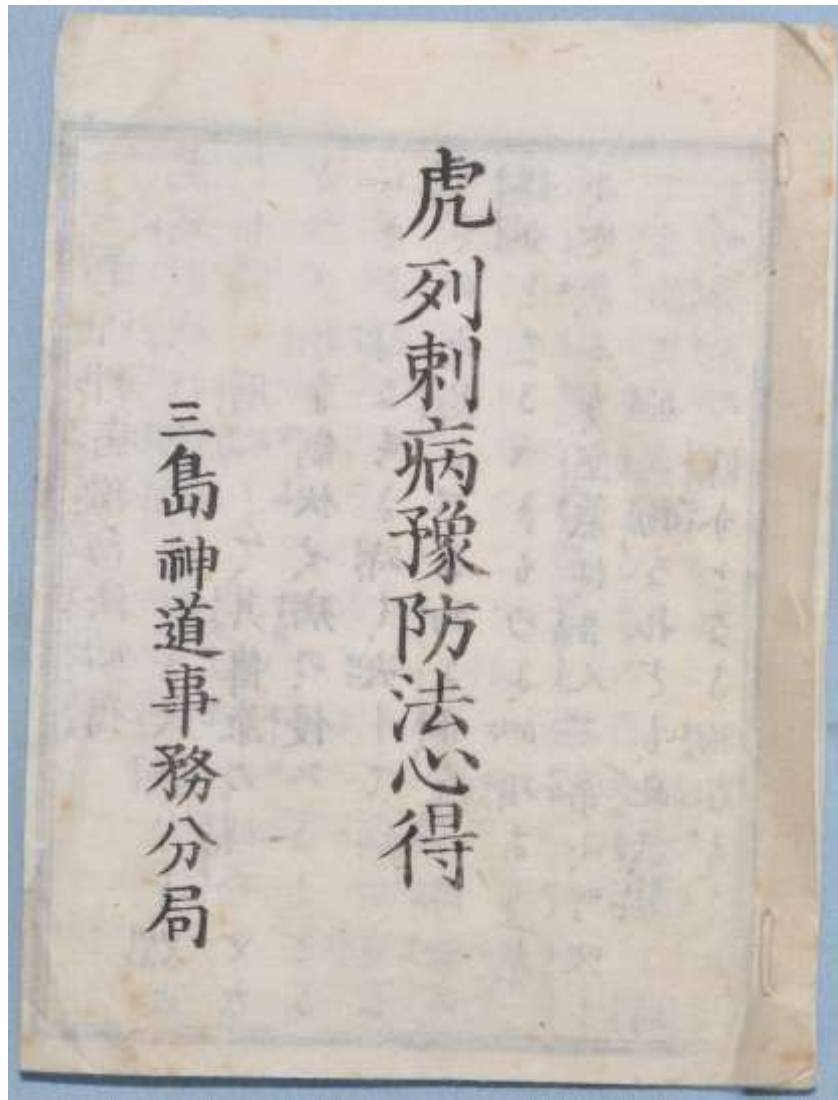
# 第13回 南伊豆を知ろう会

## 明治10年代のコレラ大流行と伊豆

2020. 8. 31

NPO法人歴史資料継承機構じゃんぴん 理事 岡村龍男

# 南伊豆に残された1点の史料



## 虎列刺病予防法心得

(これらびょうふせぎかたこころえ)

作成年代：明治13年6月

作成者：三島神道事務分局

伊豆国賀茂郡下賀茂村（南伊豆町下賀茂）の旧家に伝来

この史料はいったい何なのか？

## コレラとは？

- ▶ もともとはインドの風土病
- ▶ 19世紀に西洋諸国が全世界に進出する中でコレラも全世界にひろがる

## 日本への侵入

- ▶ 文政5年（1822）に中国～朝鮮半島～対馬を経て侵入、もしくはジャワ～長崎へ侵入か
- ▶ 安政5年（1858）長崎に入港したアメリカ船に乗っていた清国人から感染が始まり、全国的に大流行

## コレラの恐怖

- ▶ 19世紀に流行した伝染病の中で最も高い致死率
- ▶ 発病してから、すぐに死に至る（後述）

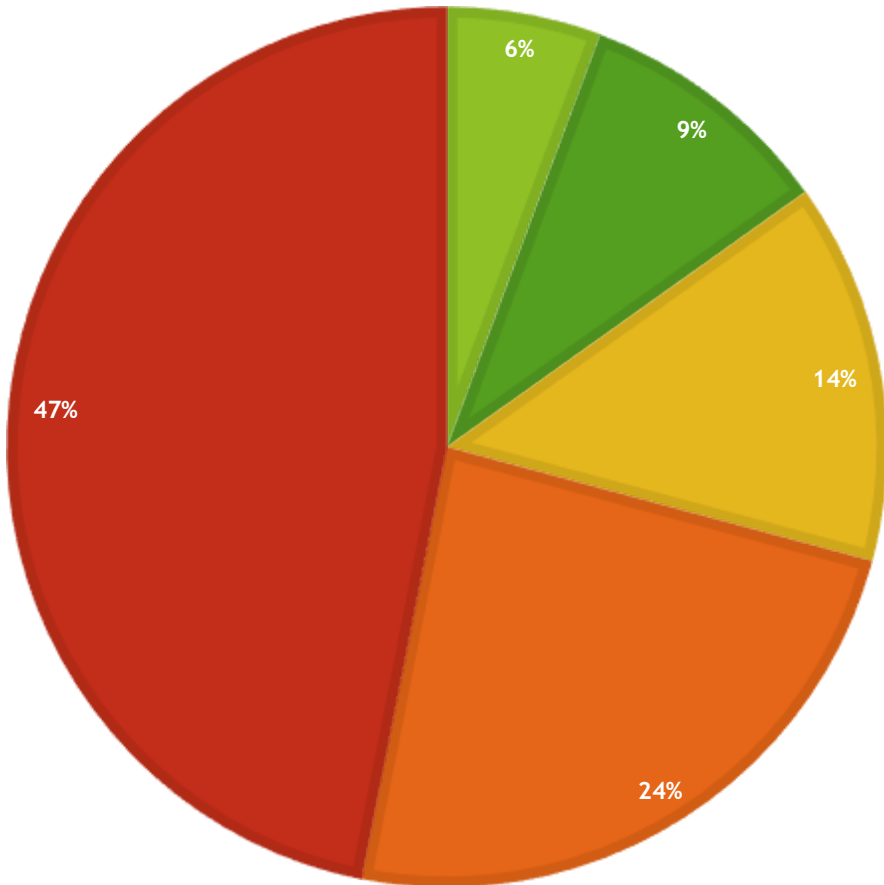
- ▶ コレラ患者の病状が異様

→にわかに気持ち悪いと言い始め、吐瀉をし、手足の筋が詰まり、見る見るうちやせて特に苦しみもなく死亡する。死体は黒くなる。

# コレラの恐怖—感染即死に至る病—

コレラ発生から死亡に至る時間（明治12年の静岡県）

■ ①～3h ■ ②3～6h ■ ③6～12h ■ ④12～24h ■ ⑤24h～



時間	人数	%
① ~3h	40	6
② 3~6h	67	9
③ 6~12h	99	14
④ 12h ~24h	169	24
⑤ 24h ~	331	47
計	707	100

半数以上が発症から24時間以内に死亡  
→即死病、一日コロリ、三日コロリ

# 明治時代のコレラ

- ▶ 明治10年代に断続的に流行
- ▶ 西南戦争の凱旋兵が各地へひろめた 検疫を無視して大騒ぎ
- ▶ 明治12・15・19年に大流行

## 政府の対応と人々の動き

- ▶ 衛生行政・衛生警察の成立→行政・警察の強制力が強い
- ▶ 文明開化への反発も相まって各地でコレラ騒動が起きる
- ▶ 吉原駅（富士市）でも暴動が起きる→死体の運搬経路をめぐって、警察が役場や民衆との約束を破ったことに民衆が激怒

# 明治時代のコレラ流行年と全国・静岡県内の状況

年代	全国			静岡県内		
	届出患者数	内死者数	死亡率	届出患者数	内死者数	死亡率
明治10年	13,816	8,027	58.10%	データなし	43	-
明治12年	162,637	105,786	65.04%	1,508	839	55.64%
明治15年	51,631	33,784	65.43%	2,962	1,870	63.13%
明治19年	155,923	108,405	69.52%	737	534	72.46%
明治23年	46,019	35,227	76.55%	395	299	75.70%
明治28年	55,144	40,154	72.82%	411	284	69.10%
大正元年	2,614	1,763	67.44%	79	27	34.18%

全国的には、明治12年・19年  
が最大の流行だが、静岡県内  
では15年の被害が甚大

# 明治12年コレラ流行時の静岡県下各郡の患者数及び死者数

駿東郡・賀茂郡・富士郡・田方郡の被害が甚大←理由は不明

郡名	死亡者数	総患者数	死亡率
賀茂郡	99	127	77.95%
那賀郡	9	17	52.94%
田方郡	86	124	69.35%
駿東郡	331	708	46.75%
富士郡	88	145	60.69%
庵原郡	5	9	55.56%
有渡郡	24	37	64.86%
安倍郡	3	5	60.00%
長上郡	30	41	73.17%
敷知郡	20	34	58.82%
引佐郡	1	3	33.33%
浜名郡	0	1	0.00%
榛原郡	1	1	100.00%
佐野郡	3	4	75.00%
周智郡	1	1	100.00%
山名郡	1	1	100.00%
磐田郡	1	1	100.00%
豊田郡	4	6	66.67%
	707	1265	55.89%

# 衛生行政と民衆のあつれきー衛生行政の問題点ー

- ▶ 交通を封鎖して村外へは行くな

→仕事先が村外にある場合や、食糧を村外から確保する場合があるのでできない

⇒村だけでは生活は完結しない

- ▶ 感染者の家に印を付けてわかるようにしろ

→流行が収束しても、ずっと「感染者を出した家」と言われてしまうからできない

⇒差別という名の二次被害の発生

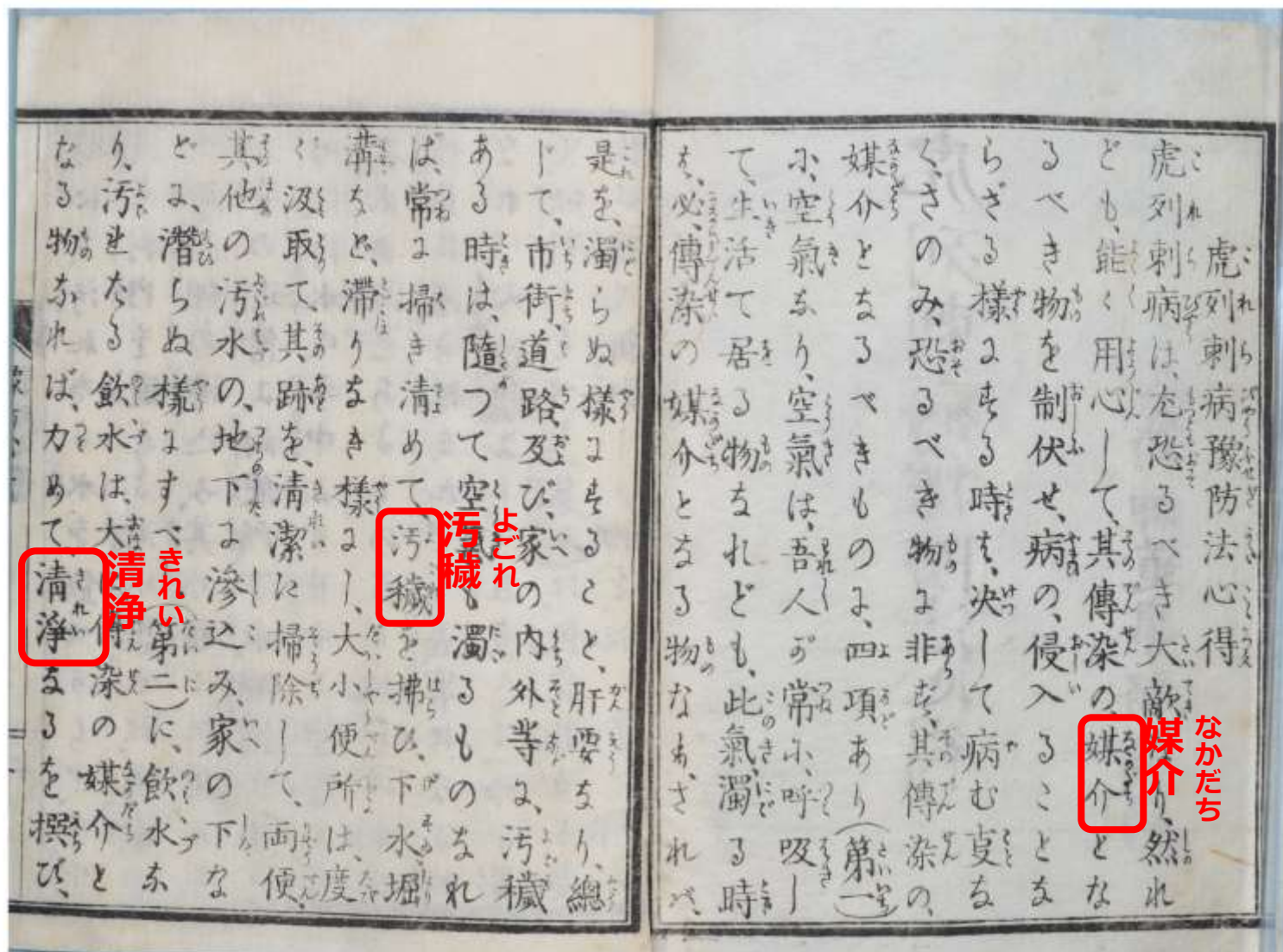
- ▶ 医者は感染者へ正直に「病名はコレラ」と伝えること

→医者も地域の中で生きているから、住民を敵に回すと生活できなくなる

⇒地域社会に生きる医師の立場



# 「命令」から「啓蒙」へ 専門用語を避けて分かりやすい対策を



大きくフリガナを振った  
感染防止の布告

なかだち  
媒介  
然れ

# 「虎列刺病予防法心得」の性格

▶ 作成年：明治13年6月

→コレラが大流行した明治12年の翌年

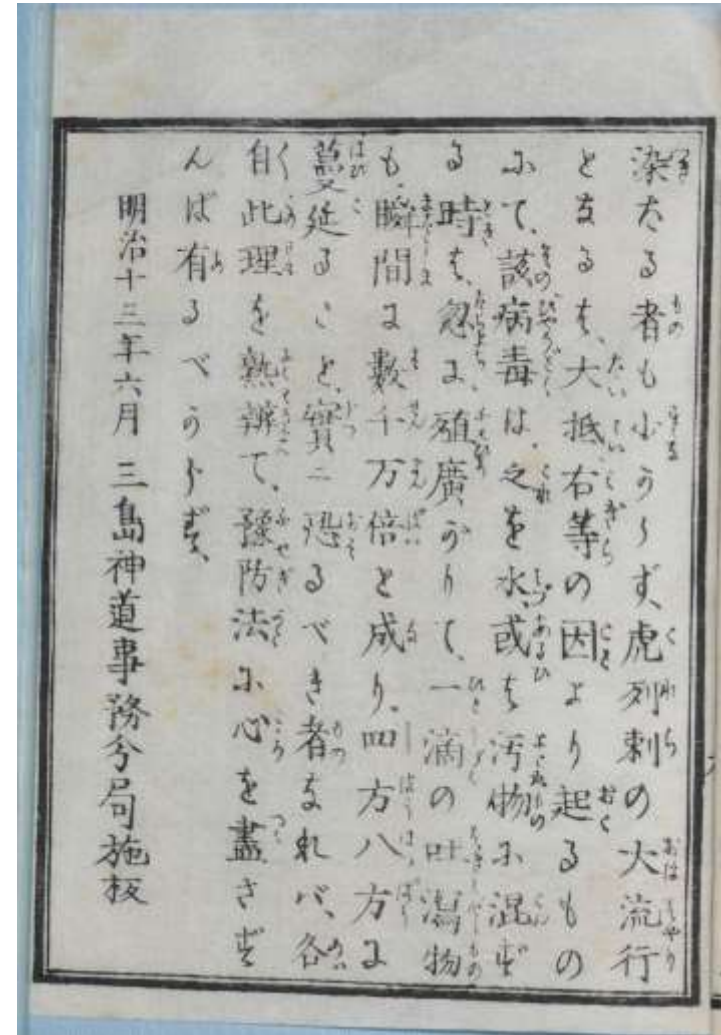
▶ 作成者：三島神道事務分局

→当時、衛生行政は内務省が担っており、宗教を管理する教育局は内務省の下に位置していた

→民衆と常に接する神道会がコレラ予防を担う

⇒県西部：秋葉神社がコレラ予防法を作成配布

県中部：静岡浅間神社が町や村からコレラ予防の祈禱を依頼された際、コレラ予防の説諭を行う



# 「虎列刺病予防法心得」の内容①空気

- ▶ 空気が濁る時は伝染の媒介となることがあるので、空気を濁らないようにすることが大事である
- ▶ 市街や道路、家の内外が汚れているときは空気も汚れるので、常に清潔にしておくこと
- ▶ 水路や堀溝などは濁らないようにし、便所は清潔に掃除して汚水が地下にしみこまないように気を付けること

(第一)に、空気なり、吾人が常に、呼吸して、生活て居る物なれども、此氣、濁る時は、必、伝染の媒介となる物なり、され八、是を、濁らぬ様にするごと、肝要なり、総じて、市街、道路、及び、家の内外等に、汚穢ある時は、随つて空気も濁るものなれば、常に掃き清めて、汚穢を払ひ、下水、堀溝など、滞りなき様にし、大小便所は、度々汲取て、其跡を、清潔に掃除して、両便、其他の汚水の、地下に滲込み、家の下などに、潜らぬ様にすべし

# 「虎列刺病予防法心得」の内容②飲水

- ▶ 汚れた飲水は伝染の媒介となる
- ▶ 衣類を洗濯した水や排せつ物が土にしみこんで水が汚れる
- ▶ 一見きれいな水でも煮沸をし、冷やしてから飲む事

(第二)に、飲水なり、汚れたる飲水は、大に、伝染の媒介となる物なれば、力めて、清浄なるを撰び、苟にも、汚れたる水を飲べからず、市中、或は、村内を通れる河水、渠水は、衣類の洗濯、両便の滲込み、其外、種々の汚あり、又井の傍に、両便所、下水、堀、溝等ある所は、汚水の、土中より、井中に滲通りて、甚しき汚れあるものなり、此らの水は、外見は清る様なれども、其害になる物なれば、必、沙濾にし、一旦煮たて、冷し置て、飲料とすべし

# 「虎列刺病予防法心得」の内容③飲食物

- ▶ 新鮮なものをよく煮て食べるこ  
と
- ▶ 生の物、時間が経過したもの、  
消化に悪いものは食べないよう  
に
- ▶ 美味しいものでも食べすぎない  
ように
- ▶ 大酒は良くない
- ▶ 少しくらいはと油断して食べて  
命を失うのは笑ってしまう
- ▶ 自分だけが用心して使用人等に  
悪いものを与え病人にしてしま  
うのは恥すべきこと

(第三)に、飲食物なり、食物は、総て、  
新鮮しき物を、能く煮て用み、生の物、  
時過たるもの、消化の悪き物は食べから  
ず、就中、餲かゝりたる米飯、生の魚、  
日ましの魚、蔵鮪の魚、煮魚、塩魚の悪  
臭もの、鰕、蟹、鯖、烏賊、牡蠣、其他  
の貝類、油揚類、新鮮しからざる獣肉、  
時移りたる豆腐、蕎麦、温飩、餅、鮓、  
餡気、干天、蒟蒻、心太、生清の香の物、  
熟まぬ菓物類、腐かゝりたる菰物類瓜、  
南瓜、西瓜等は、喫ざるを良とす、**仮令、  
美良食物たりとも、過食せず、凡て、節  
度にすべし、又、疑き食物は力めて食こ  
と勿れ、大酒は、殊に宜しからず、必、  
慎むべし、又、吝嗇の人など、少し位は  
とて、魚、其外、食物の悪き物を惜み食  
して、大事の命を失ふなど、笑ふべき事  
なり、あるいは、己の三用心して、婢僕  
等に悪き物を与へ、終に病人を拵へて、  
村里を騒す等、鄙むべく恥べき事なり**

# 「虎列刺病予防法心得」の内容④交流

- ▶ 人が多くいる場所に長い時間居ることは良くない
- ▶ 働きすぎは良くない、また怠惰に過ごすのも良くない
- ▶ 朝起きて夜寝る、通常通りに働くのが良い
- ▶ 神や仏に頼るため、大人数で集まって宗教行事を行うことは感染を広めるのでやめること

(第四)に他人との交通なり、凡て衆多の人の群集す所に、久く居るは宜しからず、又、病者に触たる人には、決して近付べからず、又人力車夫などの、長路を疾走る農人、職人等の、余り度に過たる、労役をなし、或は、業を怠りて身を惰弱にするなど、皆悪し、夜八十時を過ずして寝、朝は六時前に起て、常の如く営業するを善とす、中に八営業を止め、信心と号して、大勢群衆、謂なき唱言などし、或は、裸躰になり、川垢離をとり、或は、鐘太鼓を撞き、昼夜を分たず、炎天を厭ず、狂躁など、甚健康を害し、病に感染やすければ、慎むべし

# 「虎列刺病予防法心得」の内容⑤その他用心

- ▶ 寝冷えは下痢のもとなので、腹巻をして寝冷えしないようにすること
- ▶ 体を清潔にし、衣類はたびたび洗い汚れた衣類は着ないように
- ▶ 万一コレラに感染した場合は、隠さず速やかに届け出て指示を仰ぎ、丁寧に患者を看護すること
- ▶ 明治12年には、コレラ感染者の汚物を川に投棄、あるいは洗濯したために下流の村々に伝染したという事例があった

寝冷えは下痢の元なれば、常に、腹帯を巻きて、寝冷えせぬ様に気を付け、(中略) 股体を清潔にし、衣服は度々洗ふて、汗染汚れたる褌衣等は、必、着べからず(中略) 時は、蔽隠さず、速に、其筋へ届け出て、其指図に従ひて、丁寧に看護すべし(中略) 川上に投棄、又は、洗濯したるために、直に、其川下なる村々に伝布り、或は、病毒に触たる衣服敷物等を消毒せずして、之が為に感染たる者も少からず、虎列刺の大流行となるは、大抵右等の因より起るものにて

# おわりに

- ▶ 「虎列刺病予防法心得」の位置づけ

- 明治政府による衛生行政の末端を担った神道会による啓蒙の証し

- ▶ 今後の課題

- 「虎列刺病予防法心得」がどのように使われたのか

- 南伊豆町のコレラ被害の実態がわかる史料の発掘